

医学系研究科（医学科）の国際化の現状と一層の国際化へ向けて — 医学系研究科の国際化は研究大学を目指すことと同義 —

国際戦略室

医学系研究科 平井宏和

医学部医学科、大学院医学系研究科はインドネシアのパジャジャラン大学、ドイツのポッフム大学、タイのチェンマイ大学、コロンビアのサバナ大学と有効に機能している協定があり、毎年1週間程度、互いに学生が大学及び大学病院を訪問し合うプログラムがある。このプログラムを通じて、外国の医学の現状を学ぶことに加えて、学生同士で交流を深めている。大学院生は毎年、学生だけで外国人研究者を海外から招聘し、英語で行う国際シンポジウムを開催している。パジャジャラン大学とは修士課程でダブルディグリー制度（群馬大学に1年在学し単位取得することで、両大学から修士号を取得可能）を実施している。未来先端研究機構には海外ラボラトリーが設置されており、ハーバード大学、スウェーデンのカロリンスカ研究所、フランスのモンペリエ大学、ベルギーのリエージュ大学から教員を招聘、あるいは採用している。また文部科学省採択事業「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」において、「アジアにおける核医学発展のための指導的人材育成プログラム」が採択され、アジア諸国から多くの国費留学生を受け入れている。医学科のほぼ全ての教授は海外留学経験があり、英語での講義が可能である。大多数の研究分野は、海外との共同研究を行なっている。またほぼ全ての研究分野からの研究成果は、英語論文にまとめられ毎年、多数の国際ジャーナルに発表されている。教員、大学院生は国際学会で頻繁に発表しており、大学院生に対する旅費サポート制度もある。このように現状でも医学科、医学系研究科の教員、学生の国際化意識は高く、かなりのレベルで国際化が達成されている。

今後、さらに国際化を進めるには以下が有効と考える。

- 大学院生に対する英語での発表指導、ディスカッション指導の強化
- 英語での大学院講義の充実
- 最新の海外論文を紹介するジャーナルクラブの完全英語化
- 大学院生の積極的な国際学会への参加の奨励
- 海外から優秀な博士課程大学院生を集めるため、様々なルートを通じた奨学金や関連する国の公募プログラムの獲得
- 外国人大学院生に必要な事務連絡の英語化の飛躍的な促進
- 外国人大学院生、海外研究者が日本での生活をはじめ際の手続き等をサポートするボランティア制度の設立
- 外国人教員の積極的採用
- バイリンガルの外国人事務職員の採用

ただし、これらを進める意義は何か考える必要がある。医学科・医学系研究科で進める国際化は全て研究と結びついている。したがって、群馬大学（少なくとも医学研究科）が研究大学として生き残るという首脳陣の決意と行動が必要である。これを放棄すると、医学科は医師国家試験合格のための専門学校になり、国家試験合格には上記のような国際化の推進は不要で、疾患の病態、検査所見、治療などを日本語で教えれば十分である。医学科の学生も国際化する実質的な意味を感じなくなり、国際化というかけ声だけの意味の乏しいものになってしまう。先端研究は国際化なくしてありえないが、研究大学を放棄した医学系研究科からは先端研究を行える人材は流出するでしょう。同様に先端研究を行えない研究科は外国人留学生にとっても魅力がないでしょう。このように医学科・医学系研究科の国際化は、研究大学を目指すかどうかに密接に関連しており、「国際化を推進する」は「研究大学を目指す」とほぼ同義であり、研究大学を放棄して国際化と言っても、有名無実となることは明らかである。